

叙勲 瑞寶双光章を受章して

元 医療法人ヘブロン会 大宮中央総合病院
 現 医療法人群羊会 福音診療所
 (株)さいたまメディカルクリエート

渡辺 弘



公益社団法人埼玉県診療放射線技師会会員の皆様にあつかはしましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと平成24年春の叙勲において、埼玉県診療放射線技師会のご推薦を受けはからずも瑞寶双光章受章の榮に浴しました。

これもひとえに、長年にわたり歴代の会長様はじめ、多くの先輩、また同僚の皆様のご指導、ご高配の賜物であり、深く感謝申し上げますと共に、厚くお礼申し上げます。

先の、5月2日埼玉県知事公舎にて、勲記勲章の伝達式があり、6月5日、皇居豊明殿において天皇陛下の拝謁を賜り、あらためて身の引き締まる思いであり、生涯忘れられない喜びの瞬間でした。

昨年、本会は会発足60周年を迎え、そして昨年4月1日より公益社団法人埼玉県診療放射線技師会として、新たな旅立ちをしました。

その記念すべき年のスタート間もない春の叙勲での受章は、長年、会の役員として携わってきた、私にとりましてはより感慨深いものとなりました。

また先日の9月17日に、第六支部石川会長他有志の方と、大宮中央総合病院関係者の皆さんにより祝賀会を企画していただき、さいたま新都心ホテルブリランテ武蔵野において、多くの皆さまのご出席を賜り、盛大に開催することができました事、感謝の思いでいっぱいです。

今後もこの榮譽に恥じることはないよう一層精進し、微力ではありますが、体力の許すかぎり地域医療を担う一員として頑張る所存ですので、何とぞ従前と変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会のさらなる発展と、会員皆様の益々のご活躍、ご健勝をご祈念申し上げ、ご報告方々お礼の言葉とさせていただきます。

平成24年度 役員研修会報告

埼玉県診療放射線技師会
 総務委員会常務理事 芦葉 弘志

平成24年度役員研修会が、大宮ソニックシティにおいて11月22日（木）に行われた。研修会の形態はグループディスカッションを取り入れた。当日抽選にてグループを決め、複数の与えられたテーマからグループごとに選択し、活発なディスカッションをしていくものである。今回提示したテーマは次の通りである。

テーマ

- 診療放射線技師のための技師会活動とは
- 県民のためになる技師会活動
- 診療放射線技師が生き残る具体策
- 技師会活動における後輩の育成について
- 技師法改正のビジョン（業務拡大を含めて）
- 診療放射線技師会関連のその他のテーマ

ここでAグループとCグループが同じテーマを希望し、抽選の結果Cグループが希望のテーマとなった。この結果、Aグループは違うテーマを選択することとなったが、まとまりのある活発なディスカッションを繰り広げた。

グループディスカッションのメリットは、日頃話し合えないメンバーと自分の考えやポリシーを語り合えるという事である。またその場でグループ分けされ、与えられたテーマについて自分の考えや仲間の考えを吟味し咀嚼していく。研究発表や業務では準備や実験ができるが、ここでは経験と知識とポキャブラリー、そして発言力などが試される。さらに発表者、報告者に関しても実力を磨くことができるチャンスである。今回参加者は15名であったが、活発なディスカッションができた大変に勉強になった。

今後とも継続開催の事業として、充実した研修会を行っていききたい。以下はグループを代表しての報告である。

Aグループ報告 グループ員（敬称略）

堀江 潮田 矢崎（報告者） 佐々木（発表者） 芦葉

ディスカッションテーマ「診療放射線技師のための技師会活動とは？」

まずは技師会がどのような活動を行っているかを知ってもらうことが必要

- 技師会が行っている活動によるメリットを知ってもらう
- 講習会、研修会に積極的に参加してもらう
- さまざまな施設の人と触れ合う機会がある

技師会活動に触れる機会をつくるには

- 技師会の活動を知っている人を増やす

- 魅力のある講習会、研修会の増加
 - 技師会に気軽に参加できる環境作り（施設の技師長や中堅を巻き込んで）
 - 新診療放射線技師への広報活動
- よりよい技師会活動を目指すためには、技師会に関わってくれる人を増やす努力が必要

- 技師学校へのアピール
- 施設の組織の長である方（技師長）へのアピール
- 中堅層の活発な参加
- 会員外の技師へ活動内容を知ってもらう

活動を支えるのは人である。多くの人が参加することによってつながりができ、それにより魅力ある人材の発掘、よい人材育成の環境の整備がかない、活動が今よりさらに活発となるだろう

Bグループ グループ員（敬称略）

橋本 田中 山田（発表者） 横山（報告者） 大西

ディスカッション テーマ「業務拡大」

【業務拡大とは】

業務拡大には大きく別けて2種類ある。

1. 取り扱いモダリティを増やすなどの業務拡大

例) 乳腺エコーや腹部エコーなどの新しいモダリティの獲得

2. 既存のモダリティの中での業務拡大

例) 一次読影レポートの作成・院内での広報活動（「心臓CTニュース」などの発行）

【業務拡大へのアプローチ】

では、実際に業務拡大を行うためにはどうすればいいのか。

組織（部）として…

1. 知識を得る → 2. アピールする → 3. チャンスを得る → 4. 周囲からの納得
→ 5. 信頼を得る → 業務拡大

一例として、このようなフローが考えられるが、全ては継続することが重要。カンファレンスなどへ参加するだけでも意味があると思われる。

【業務拡大の問題点】

《外部》他部署との問題・摩擦・調整など（業務の重複）

《内部》仕事量の増加に伴う内部からの反発や人員不足

これらの問題点に対し、所属長と現場の役割は異なる。

《所属長》外部との調整や内部の取りまとめ

《現場》謙虚に働く

【結論】

業務拡大とは、我々の職域確保のみならず、患者様のためになる仕事をするにつなると考える。

Cグループ グループ員（敬称略）

小川 富田 栗田（発表者） 城處（報告者） 中村

ディスカッションテーマ「診療放射線技師が生き残る具体策」

診療放射線技師が生き残る具体策としては様々な意見が挙げられたが、大別すると3項目に分類された。一つ目は『個人の能力』であり、厚生労働省医政局長通知の「画像診断における読影の補助を行うこと」もあり、これからの技師にとっては医師と同等な読影能力を目指し、1次読影を積極的に行っていくことが必要である。また新たな業務を獲得することも必要であり、そのためには自身の仕事に枠を設けないことを心掛け、施設内で業務拡張を推進していくべきである。心臓カテーテル検査を例に挙げると、撮影や線量管理だけではなく、カテーテルの操作やその指導を技師が行っている施設もある。X線業務以外では医療情報分野や病診連携における技師の雇用などが挙げられた。二つ目は『施設における存在』であり、技術部の中だけではなく、施設経営にも技師が携わるべきである。高額医療機器を多く扱うため収支を分析して有効的に活用することや、目先の損益だけではなく、5～10年先の長期的な視点が求められる。コスト面のみを重視した機器選定が行われがちであるが、現場の意見を反映できる環境づくりも必要であり、結果として被ばく低減など患者にとって有益な検査が可能となる。ただし、経営に携わる上では幅広い知識、柔軟性、忍耐力、問題解決力など通常の放射線業務とは異なることも必要であり、大学院への修学により高学位取得者を増やすことで経営への参加をアピールすることも手段の一つである。三つ目は『国への交渉』であり、厚生労働省や中医協、工業会などへ直接折衝できる団体は職能団体の日本診療放射線技師会である。看護師は入院患者1人に対する人数によって診療報酬が異なるが、今後は、技師も診療報酬に反映した雇用がされるよう求めていくべきである。いずれにしても、個人の努力無しに成し遂げることはできず、他力本願では生き残ることは難しい。これらの3項目をバランス良く行っていくことで、診療放射線技師が生き残れる道が開けるはずである。



第4回CT認定講習会開催報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会常務理事 富田 博信

埼玉県診療放射線技師会で行っている認定技師制度は平成11年に胸部、上部消化管、乳腺の3部門でスタートしました。その後、乳腺は全国統一認定に移行し、2部門で継続して参りましたが、現在はそれらにCTを加え、胸部、上部消化管、CTの3部門で認定を行っております。

今回の埼玉CT認定講習会日程は、平成24年10月27日(土)、平成24年10月28日(日)の2日間終日にわたり埼玉県済生会川口総合病院にて開催され、第3回目に続き、多くの皆様にご参加いただき、県内のCT撮影技術の向上に寄与したと思っております。講習会を受講された皆様におかれましては、お忙しいところ参加していただき、主催者からも感謝申し上げます。

本年度は後半に、埼玉CTテクノロジーセミナーと共同開催をさせていただき、研究発表のポイントや、学会発表におけるスライド作成のポイントなどを、県内若手の診療放射線技師を対象として講義をしました。参加は学生を含め50名程度となり盛会のうちに終了しました。

講師(敬称略)と科目

CT認定講習会 プログラム

平成24年10月27日(土)

9:00～9:15:オリエンテーション

9:15～11:00:日本X線CT専門技師認定機構および埼玉CT認定試験対策

富田 博信 済生会川口総合病院

11:00～12:00:頭頸部CTの撮影法、読影講義

富田 博信 済生会川口総合病院

13:00～14:00:胸部CTの撮影法、読影講義

染野 智弘 羽生総合病院

14:00～15:00:腹部CTの撮影法、読影講義

八木沢英樹 埼玉社会保険病院

15:00～16:00:造影技術概論

中根 淳

埼玉医科大学総合医療センター

16:00～17:00:救急CTの撮影法、読影講義

田中 功

東京女子医科大学東医療センター

平成24年10月28日(日)

9:00～10:00:物理特性講義

城處 洋輔 済生会川口総合病院

10:00～11:00:ファントム作成 実習I

志藤 正和 済生会川口総合病院

11:00～12:30:実習II(MTF、SSPZ、NPS)

双木 邦博 さいたま市立病院

13:30～17:00:埼玉CTテクノロジーセミナー合同企画

以上

平成24年度 MRI基礎講習会開催報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会理事 栗田 幸喜

昨年度は「MR 専門技術者認定試験から学ぶ MRI の基本知識」ということで、装置の性能評価項目を中心に講座を開催しました。本年度は過去に行われた認定試験問題から出題頻度の高い基本的な問題と安全に関する問題を抜粋し、解説を含めて“MRIを扱うにあたり知っていて損のない知識”の向上を目的にセミナーを企画しました。解答の作成には時間を要しましたが、当日は専門技師を目指そうとしている方のみならず、県外の方も含めて30名という多くの方の参加をいただき有り難うございました。受講者ならびに協力いただいた方々に感謝申し上げます。

プログラム

平成24年11月18日(日)

12:30～	受付		
13:00～13:20	基礎問題Ⅰ模擬試験		
13:20～14:20	基礎問題Ⅰ解説	済生会川口総合病院	浜野 洋平
14:30～14:50	安全管理模擬試験		
14:50～15:50	安全管理解説	獨協医科大学越谷病院	宿谷 俊郎
16:00～16:20	基礎問題Ⅱ模擬試験		
16:20～17:20	基礎問題Ⅱ解説	済生会栗橋病院	渡邊 城大
17:20～	質疑応答		

さいたま赤十字病院の講堂にて、平成24年度MRI基礎講習会を行った。今回は過去に行われた磁気共鳴専門技術者認定試験問題(MR認定試験)から基本的な問題と安全に関する問題を抜粋し、一つのセクションを各自約20分で解いていただき、その後、約60分かけて関連事項を含む解答と解説を行った。基礎問題Ⅰとして磁気緩和、付加パルス、傾斜磁場の分野で10問を済生会川口総合病院の浜野先生が担当し、次に安全管理問題として14問を獨協医科大学越谷病院の宿谷先生が担当した。最後に基礎問題Ⅱとして原子核磁気モーメント、SAR、法則、機器、k空間と画像構成の範囲で10問を私が担当した。特に基礎問題ⅠとⅡは、MRIの一番基本となる部分を行ったこともあり、理解しにくく難解な問題が揃った。そのため、受講者からも難しいという意見が寄せられた。時間的にも多くの問題、また十分な説明を行うことができないため、配布した資料は後日に見直すことで理解ができるように、分かりやすく配慮し作成したつもりである。ぜひ参考にさせていただきたい。

安全管理問題は3rd-editionも含め、法からMRIの安全まで幅広い話であった。必ず出題される範囲であり、MR認定試験を受験される方は復習しておくことをお勧めする。今回、行えなかった範囲の問題もまだあり、同様の形式で続きを行ってほしいという受講者の意見も考慮し、どこかの機会で説明できたらと思う。最後に参加していただいた方、模範解答を考えていただいたSMCのメンバーの方、そして当日手伝いをしていただいた大森先生、結城先生に感謝いたします。(講師代表：渡邊城大)

平成24年度 第11回胸部認定講習会報告

埼玉県診療放射線技師会
 学術委員会理事 佐々木 健

平成24年12月2日（日）、第11回胸部認定講習会を行いました。

講習会参加人数は52名と昨年より20名程受講者が増え、胸部単純撮影の大切さを実感しました。

東京都や千葉県からの参加者もあり、埼玉県診療放射線技師会で行っている認定講習会への関心の高さも伺えました。

今年度から小児胸部の項目を加えたところ、大変好評であり、来年以降も継続していきたいと思えます。

当日は急用で来られない講師の方もいらっしゃり、急遽内容を一部変更しましたが、それ以外は大きな問題もなく終えることができました。

内容と講師は以下の通りです。



- | | | |
|----------------------------|--------------|-------|
| ・胸部単純写真の撮影法 | 上尾中央総合病院 | 佐々木 健 |
| ・装置の基礎 | 株式会社島津製作所 | 高濱 広大 |
| ・小児胸部撮影について | 埼玉県立小児医療センター | 横山 寛 |
| ・胸部のCT診断 | 羽生総合病院 | 染野 智弘 |
| ・診療放射線技師に必要な胸部単純撮影の読影（初級編） | 埼玉県立小児医療センター | 田中 宏 |
| ・胸部単純撮影の読影 | 上尾中央総合病院 | 佐々木 健 |

認定試験は平成25年2月24日（日）13：30～15：30。場所をさいたま赤十字病院に移して開催します。多くの認定者が出る事を願っています。

彩の国いきいきフェスティバル参加報告

埼玉県診療放射線技師会
 公益委員会常務理事 中村 正之

平成 24 年 11 月 4 日（日）、伊奈町にある埼玉県県民活動センターにて彩の国いきいきフェスティバルが開催されました。今年は 11 回目の開催だそうです。私たち、埼玉県診療放射線技師会は 2 回目の参加となりますが、公益社団法人としては初めての参加となります。

当日は晴天に恵まれ、2 万人を超える参加者があり大変な賑わいでした。

私たちは昨年同様に、骨密度無料測定、パネル展を行い、骨密度を測定された方は 215 名でした。それに加え今回は、GE ヘルスケア・ジャパン(株)の御好意によりワークステーションも展示し、CT、MRI などの画像も楽しんでいただきました。また昨年来られた方で、今年も楽しみにしていただいた方もおり、有り難く感じています。

最後に、公益社団法人埼玉県診療放射線技師会では、会員の皆様とともに公益活動を行い、県民の皆様との窓口になれるようイベントに参加したいと思います。

巻頭言

会告

お知らせ

学術大会

学術寄稿

動本
会
き
の

報
告

強各
会支
情部
報勉

掲各
示支
板部

動会
員
向
の

自由
投稿

議
事
録

役員
名簿

申 F
込 A
書 X

コ求
ーナ
ー人

投稿
規程

ジ年
ユ間
ース
ルケ